

銀杏の老後

伊勢さきゑ

お遍路に百年続く食堂福助は
連子格子の入口にかかる藍染の暖簾をくぐると
カウンター上の壁に
ずらっとお品書きの紙が張り出してある

各種うどんやそばに定食、カレーライス
自分で作るソフトクリームは二百円
ガラスケースの中には
鯖寿司やボウゼ寿司や散らし寿司の皿

混み始めの店内はうどんをゆでる湯気に満ちて
夫と二人で注文した中華そば肉入りを待っていると
前の席に老女が三人やってきた

短髪白髪が一番威勢がよさそうな婦人に
「前、ゴメンやで」と相席を挨拶されて、会釈で返す
老女たちは鯖寿司とミニうどん
「わたしや鯖寿司二人前」と
一番体格のいい老女が照れ笑いした

私たちも中華の他に鯖寿司を追加した
薄紅の身が光っていて
しっかりとしめた鯖の甘みが移ったご飯をほおばった

三人の老女たちは
ほとんど話もしないで
横に並んで鯖寿司に向かっている

さて次は樹齡八百年の銀杏の木があると
今朝がたホテルの徳島新聞で見たばかりの地蔵寺に向かう

前を見ると

さっきの三人組の車だった

運転者は二人前を頼んだ老婦人

後ろの席に二人を乗せている

おだやかな冬の陽光がさす吉野川の橋を越え
私たちと同じところに行くのかと思ったら

田んぼや畑の真ん中に突如現れた

大型スーパー兼娯楽所に車は吸い込まれていった

―まだ遊ぶのか―と夫が車を横目に苦笑する

いいじゃないの 今日休みの午後

たまには羽目はずしたって

こっちに引っ越したら

私もああいう友だちできるかなあとと思う

もう仕事人間はやめて生真面目も捨てて

休みごとに

うどんと鯖寿司食べてカラオケ行つて

ぼんやり考えていたら地蔵寺に着いた

弘法大師様の頭が見える門をくぐると

目の前がパアツと明るくなる銀杏の絨毯

境内の真ん中に同心円状に枝を広げた大きな銀杏の木が

今もはらはらと葉を散らし地を埋めている

まるで金剛界に続く

金色の絨毯が拡がっているようだった

(地蔵寺)

戦略

伊勢ささき

古びた青石の階段に
どんぐりがまばらに落ちている
歩いている今も
上からかさつと落ちる音
ころころ転がったどんぐりは
人に蹴られて
風に吹かれて
石と石との隙間に入り込み
いつしかその殻を割って
青石の威厳ある隙間に
薄緑の腹を出して伏している

(阿波瑞巖寺)

遍路

死に装束の母がひらりと渡っていく水の秋

伊勢さき